関連法令等

- ・日本国憲法
- ・人権関係諸条約・法律
- ・教育基本法
- ・学習指導要領
- ・人権教育及び人権啓発の推進に関する法律
- ・人権教育・啓発に関する基本計画
- ・県人権施策基本方針
- ・県人権教育基本方針
- ・県同和教育基本方針
- ・市 部落差別をはじめあらゆる差別をなくす条例
- ・市学校教育指針
- ・市教育行政方針
- ・市同和教育方針

学校教育目標
主体的・創造的な子どもを育成する

人権教育の目標
人権尊重の大切さを自覚して、同和問題の本質を認識し、差別を見抜く力と差別を許さない心情をもち、連帯して問題を解決していく子どもを育成する。

- 友達の気持ちを理解し、仲良く助け合う子。
- 相手の立場に立って考え、行動できる子。
- みんなのために、責任ある行動ができる子。

児童の実態

- ・明るく元気に学校生活を楽しんでいる。
- ・友だちや地域の人に進んであいさつができています。
- ・学校生活になじめない子どもがいる。
- ・人の気持ちや立場を考えず、自分中心の言動をする子どもがいる。
- ・友だちとのかかわりがうまくできない子どもがいる。

地域・保護者の実態・願い

- 地域の方々は協力的であり、地区委員を中心に児童の登下校や放課後の安全を見守ってくれている。
- 子どもセンターの運営はPTAの各部が担当し、計画・準備等をしている。
- 夏の祭りでは保護者と共に6年生各クラスも出店。教員はPTAの店に分担して手伝いに参加し、交流を図る。
- 保護者が望む学校(アンケートより)
  - ・明るく楽しい学校生活ができる。
  - ・友達との関わり方を学べる。
  - ・いじめがない。
  - ・勉強がよくわかる。

人権教育の努力点

- ・仲よくともに話し合い行動することを通して、問題を解決した喜びを感得するとともに、力を合わせる大切さを知り、一人ひとりを認めあえる学級・学校づくりに取り組ませる。
- ・人間の命の尊厳と、励まし合って生き抜いていく努力を認め、人権侵害の事実や不合理に鋭く気づき、一人ひとりの課題として取り組ませる。
- ・教科指導や道徳教育、人権教育、特別活動等の実践を通して、情操を豊かにし、偏見を排除する強い意志をもって事実とその原因を見極め、人権に対する意識を定着させる。
- ・社会科学習においては、指導計画に基づき、子どもが主体的に差別の不当性を学び、部落差別を実践的・科学的に認識していく基本的な態度を身につけさせる。
- ・動物の飼育や植物の栽培を通して情操を豊かにするとともに、人権に対する理解を深めさせる。

各教科等における関連目標

- 【生活科】
  - ・自分と身近な人々、社会、自然との関わりを活動や体験を通して知る。
- 【社会科】
  - ・社会生活の理解を図り、社会の形成者としての資質を養う。
  - ・自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人のはたらきについて理解する。
- 【国語科】
  - ・適切に表現し正確に理解する能力を育成し、思考力や想像力、言語感覚を養う。
- 【道徳】
  - ・道徳的価値の自覚及び自己の生き方への考えを深め、道徳的実践力を養う。
- 【学級活動】
  - ・自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。
- 【総合的な学習の時間】
  - ・よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、自己の生き方を考えることができる。
- 【他教科等】
  - ・各教科等の特性を生かす、一人一人を大切にする授業を展開し自己肯定感の高揚をめざす。

学年	目標／めざす学級のイメージ	めざす子どもの姿
ひまわり (特別支援)	友達と仲よく遊ぶ。	・基本的な生活習慣を身につける。 ・自他の区別がつき、遊びのルールがわかる。 ・「ごめんなさい」「ありがとう」が言える。
	みんな笑顔で楽しい学級	
1年生	友だちを大切にし、仲よくする。	・基本的な生活習慣を身につける。 ・人の話を聞く。 ・困っている子に優しくできる。
	みんなと仲よくできる学級	
2年生	友だちと力を合わせ、助け合う。	・基本的な生活習慣を身につける。 ・人の話を最後までよく聞き、自分のことをしっかり話す。 ・困っている子の気持ちが分かり、手をさしのべる。
	みんなと力を合わせ、助け合う学級	
3年生	相手の立場に立って考え、協力し合う。	・友だちの考えをよく聞く。 ・自分の考えをもつ。 ・相手の気持ちを思いやることができる。
	一人一人のよさが分かり、本音を出し合える学級	
4年生	相手の立場になって考え、困難にもくじけることなくみんなで力を合わせる。	・物事を正しく判断する。 ・相手の気持ちを思いやり、行動しようとする。 ・力を合わせ、ねばり強く最後まで取り組む。
	互いに認め合い、支え合う学級	
5年生	自他の人権を大切にし、常に相手の立場に立って考え、行動する。	・身の回りの差別や不合理に気づく。 ・相手の考えや思いを理解し、行動する。 ・互いに協力し合うことの大切さを実感する。
	互いに認め合い、支え励まし合う学級	
6年生	人権尊重の立場になって考え、身の回りにおける差別や不合理を見抜き、解決していこうとする。	・差別に対して、鋭い感性をみがく。 ・相手の立場になって考え、自分を見つめ行動する。 ・互いに協力して問題を解決する。
	相手を尊重し、励まし合い、みがき合う学級	

保護者との連携

- ・人権教材を用いた授業参観を行い、その後の懇談で保護者との話し合いを通して共通理解に努め、人権教育についての正しい認識の定着を図る。
- ・特別支援教育に関する啓発として、開級式や運動会前等に保護者向けのお便り発行。
- ・PTAの人権部会が、講師を招き、実行委員会で人権研修。
- ・地域の人権研修会を支所で行っており、人権月間には6年生児童の人権標語をクラスごとに支所に掲示し、地域の方々に啓発。

取組の重点

交流活動による人権学習

大規模校であるが故に交流の機会を意図的・計画的にとり、様々な人の見方・感じ方を体得するとともに、コミュニケーションの力を育てる。

文学教材等による人権学習

文学教材等により、様々な人間の生き方に触れさせ、子どもの見方・感じ方をより広く、より深いものにする。また、人権についての鋭い感覚を養い、差別を見逃さず、力を合わせてなくす実践力のある子どもを育てる。

同和问题関連教材による人権学習

部落差別をはじめ差別を実践的・科学的に認識していく基本的な態度を身につけるため、人権に関連した教材を見つけて、人権教育の観点から教材研究を行い指導する。特に6年生担任・人権教育部・社会科研究部が中心となって指導内容や方法について検討し、全職員共通理解のもとに指導する。人権に関連した教材を通して、部落差別をはじめとする差別について科学的な認識を深め、社会の不合理や偏見を見抜き、解決に向けて取り組むことのできる態度を育てる。

学級経営

一人一人の問題をみんなの問題として受け止め、話し合いによって楽しい学級をつくろうと努力し、実践する子どもを育てる。

教職員の研修

- 会議ごとに「雑賀の子」の議題で子どもの実態や課題を職員間で情報を共有し、共通理解、解決を探る。
- 教職員の人権意識の高揚や指導方法向上のために、研修を計画的に実施する。
- 校外の人権研修会等に積極的に参加する。
- 西浜中学校ブロック人権教育研究会活動を通じて、他校種や他小学校と研修交流を図る。
- 1年間の取組は、人権教育部が主になり、冊子「人権教育の実践」を作成ことで成果と来年度への課題を明らかにする。